

競技規則及び留意事項

《大阪府協会主催試合U10, 12 カテゴリーの注意事項》

- ・本大会は平成30年度日本協会制定のミニ・ラグビー競技規則に基づき行います。

1. 本大会特別規則

- 試合時間は 分ハーフで行ない、ハーフタイムは 分とします。
- 移動時間も 分のため、試合終了後の相手チームベンチへの挨拶は無しとし、速やかに退場してください。
- 試合時間の関係上、ゴールキックは行ないません。
- その他、30年度ミニ・ラグビー競技規則記載の各、注意事項に従い競技を行ないます。
- 細部については当日の代表者打ち合わせで調整します。

2. 競技上の注意

- レフリー・タッチジャッジをされる方については、「**レフリー、タッチジャッジの服装**」をしてください。
- 各チームキャプテンは、一つ前の試合のハーフタイムに本部に集合し、担当レフリーを交えて予めトスを済ませておいてください。最初の試合は開始10分前に本部に集合ください。
- 選手交代はハーフタイム時も含めて、必ずレフリーの了解を得、交代すること。
- 選手はもちろんのこと、指導員のスパイクもゴムの固定式であること。
- タッチジャッジ役の指導員はレフリーを助け、タッチジャッジに専念してください。選手への指示は厳禁です。
- ウォーミングアップについては、次のチームのみ北・南側インゴールにて行ってください。
- グランド内での給水は**水のみ**とし、スポーツドリンク等は禁止します。

3. 安全対策に関して

- 各スクールとも保険加入された上でご参加ください。大会中に発生した負傷については、応急処置の外は責めを負いません。
- 新型インフルエンザと診断もしくは認められる選手は、各スクールの責任において出場の辞退を行ってください。
- 試合中のいかなる時点であっても脳震盪を起こした、または、脳震盪の疑いがあるプレーヤーだけでなく、頭部打撲や頭部裂傷を負った場合も、そのプレーヤーをただちに競技区域から退かせて、その後、試合に参加させないでください。

4. 観戦上の厳重注意

- グランドへの入場は、関係者以外一切禁止といたします。(大会運営本部役員・レフリー・タッチジャッジ・ドクター・選手・監督1名・コーチ1名・セーフティアシスタント1名・ウォーター1名とします。)
また、グラウンド内での、コーチ・保護者の写真及びビデオ撮影も一切禁止です。

5. 本大会留意事項

キック

- ・ 地面にあるイーブンボールを相手側に強く蹴り込む行為は禁止である。また相手プレーヤーがイーブンボールにセービングなどで働きかけている所へのキック行為は相手に怪我をさせる様な行為として厳重に対処します。ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。
- ・ ※ラック内にあるボールを蹴り出してはならない。自陣に向けて後ろ向きにかくことのみ許される。(注※)

ゴールキック

- ・ トライ後のゴールキックは行わない。

第9条 不正なプレー、危険なプレー、不行跡に追加事項

- ・プレーヤーは無謀な、または、他者に対して危険な行為はいかなるものもしてはならない。以下は危険な行為となる。
- ・フェンドオフ（腕を横に振り相手を払いのける行為）・胸部よりも上への働きかけ・ノーバインドタックル・襟を掴む・後ろ等から肩口を掴む・体当たり・引き倒す・振り回す・突き倒す（押し倒す）・頭突き・逆ヘッドとなるタックル 「罰：ペナルティ」
（2019年9月18日改正）

第9条 不正なプレーに 32. ローヘッドを追加

- ・いずれのプレーヤーもモールへの参加も含む全ての局面において頭を肩や腰より低く（ローヘッド）した状態でプレーをすることはできない。
具体的には、ボールの争奪・及びタックル時、ボールを確保する行為、タックルの形成前からラック・モール形成時を含めた全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に頭を下に向け、肩や腰よりも頭を下げたままプレーをすることをいう。
ボールの位置から離れたスweepや頭が下がる突っ込み、ブリッジング、或いはボールに対して蓋をするような行為もローヘッドとる。
「罰：ペナルティ」
（2019年9月18日改正）

・また判定に異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である。
すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がるか、反則があった地点がゴールラインにから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。フリーキックも同様である。なおペナルティキックあるいはフリーキックにおいてタップキックするプレーヤーはボールを地面に置きただけで明確に触れる事である。

タックル

- ・タックルしたプレーヤーはすぐに相手を離し転退する。
- ・タックルされたプレーヤーはすぐにパスするか、ボールを手放す。
- ・※全てのプレーヤーは、倒れているプレーヤーの後方からボールに向かって立ってプレーする。ボールの位置から離れたスweepや頭が下がる突っ込みや倒れ込み、シーリングなど自立していない状態やボールの前で立ちほだかるプレーはすべてPKである。（注※）
- ・◎タックルされたプレーヤー、地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、脚の間からボールを後方に押し出すプレー（スクイーズボール）は、どのような状況であろうと危険なプレーとしてPKです。（注◎19歳未満に適応）
- ・胸部から上のタックルはすべてハイタックルである。襟を持つことも危険なタックルであり、また、相手をバインドせず突き倒したり投げ飛ばしたりするプレーや頭突き、相手を掴んで振り回す行為はタックルではなく、危険なプレーである。意図的でなく偶発的な場合で同じです。このようなプレーにはレフリーは即刻試合を止めて厳しく対処します。
状況により即退場やシン・ビンもありえます。

モール

- ・横あるいは後ろに動いている場合も停滞している状態である。
本ルールには5秒間停止した後とありますがミニラグビーは転倒時の危険等が予想されるので早めに声をかけスムーズにボールが出ないと判断すれば5秒にこだわらずモールを終了させスクラムで再開する。
モール内での胸部より上や危険な部位への働きかけはペナルティーとなります。

ラック

- ※ラックは少なくとも一人のプレーヤーが両足で地面にある（または、タックルされたプレーヤーの上、タックラーの上にある）ボールをまたがって立つ事で開始される。
この時点でオフサイドラインが形成される。両足で立ったプレーヤーは、すぐに行う限り、ボールを拾う事が許される。ただし敵のプレーヤーが到着した瞬間、手の使用はできなくなる。(注※)
◎ボールキャリアが倒れてボールが停滞すれば、安全のために即時にプレーを止める。(注◎)
※ラック内にボールがありコントロールしている場合、ラックは終了していません。(注※)

その他

- 試合開始時にはジャージをパンツの中に入れ、ストッキングをしっかりと上げた状態で整列する事。
試合中もこの状態を保つように努力ください。
またヘッドキャップは頭に合った物をしっかりとかぶり試合中に取れないようにしてください。
- 女子プレーヤー以外タイツは禁止です。
- ドレスチェックは行なわないので、各チームでスタイル、爪等をチェックすること。
- ゲーム中は、レフリーから様々な指示の声がかかるのでその声に従う。

レフリー、タッチジャッジの服装

- レフリーは上下白のジャージ&短パン（できればポケット付）を着用し、ジャージは短パンに入れてU12担当レフリーは胸には大阪協会認定のワッペンをつけていること。ストッキングは所属チームカラーに合わせる事が望ましい。
スパイクは金属製の物は履かない。メガネはレンズも含めて落下しないようにする事。
スパッツなどのアンダーウエアもジャージからはみ出さない程度のものを着用すること。
タイツは女子プレーヤー以外は禁止です。
- タッチジャッジもレフリーに準ずるジャージが好ましく自チームのジャージ・背番号付以外のジャージを着用しジャージは短パンに入れて帽子やサングラス、タオル、ウエストポーチを着用しないでください。

◎確認事項として追加事項

「(公財) 日本ラグビーフットボール凶器阿普及育成委員会小学生部門申し合わせ事項
脳震盪、脳震盪の疑いがあり医師、指導者、レフリーの判断で競技を離れたプレーヤーは当日への出場を認めない。またその後のプレー復帰は日本協会の定める脳震盪ガイドラインの段階的復帰プロトコル(G RTP) に従わなくてはならない。」
(2019年9月18日改正)

選手に大きな怪我をを起こさせないよう、普及育成委員会として以上の点を選手、指導者、レフリーと一体となって啓発していきます。
特にレフリーも試合中のジャッジだけでなく、安全面での選手の指導を行います。

(参考資料)

- ☆平成30年改訂版 競技規則
- ☆19歳未満 国内高専・高校以下用 競技規則 2018
- ☆U-15 ジュニアラグビー競技規則 2018
- ☆U-15 ジュニアラグビー競技ガイド (2018.4.1)
- ☆U-12 ミニラグビー競技規則 2018
- 2018年8月22日改正分も含む (中学年・高学年用)
- ☆「安全なプレーをするための、ジュニア・ラグビーレフリングの指針 (2018年度追加)
大阪府ラグビーフットボール協会 普及育成委員会作成分